

# 序章（案）

## 1. 計画策定の位置付け・役割

人口減少・少子高齢化への対策、昼夜間人口差の解消は、湖西市にとって最重要課題であります。その中において、個々の住民のニーズや生活スタイルは多様化しているため、柔軟で効率的な施策展開、行政運営が求められています。

こうした状況に対応し、誰もが「住みたい・住み続けたい」と思えるまちづくりの指針となるよう総合計画を策定します。

## 2. 計画の構成と期間

第6次湖西市総合計画は、「基本構想」及び「基本計画」で構成します。

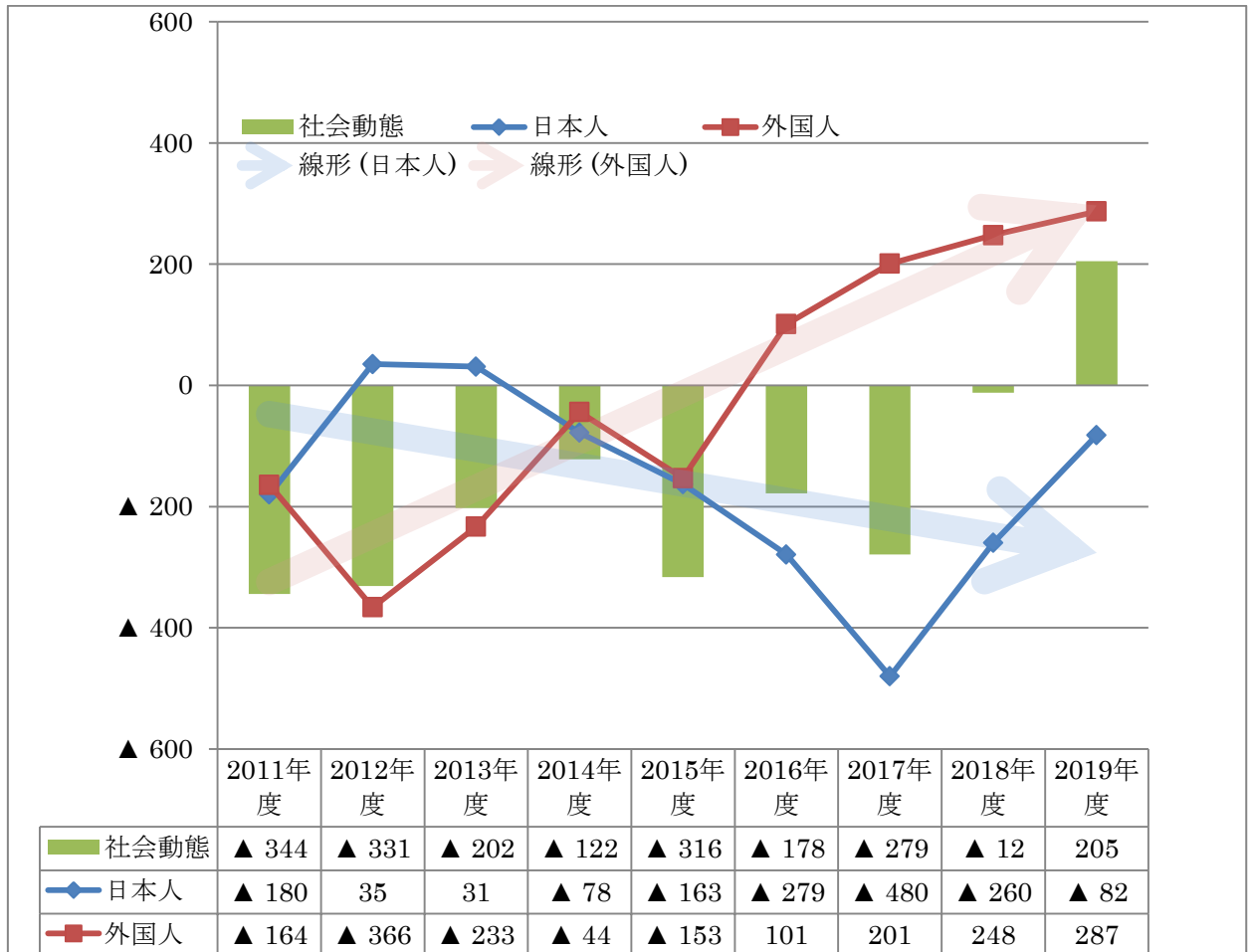
「基本構想」は、湖西市の最も基本となる構想であり、2040年の理想の姿を明確にし、その実現に向けての考え方や理念などを示します。

「基本計画」は、基本構想の実現に向けて、必要な施策を体系化し、方向性を示した具体的な計画を示します。

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
経過年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
基本構想	計画期間 13年間												
基本計画	I期 計画期間 5年間					II期 計画期間 4年間				III期 計画期間 4年間			
指標	→					→				→			

### 3. 湖西市の人口

#### ○社会動態の推移



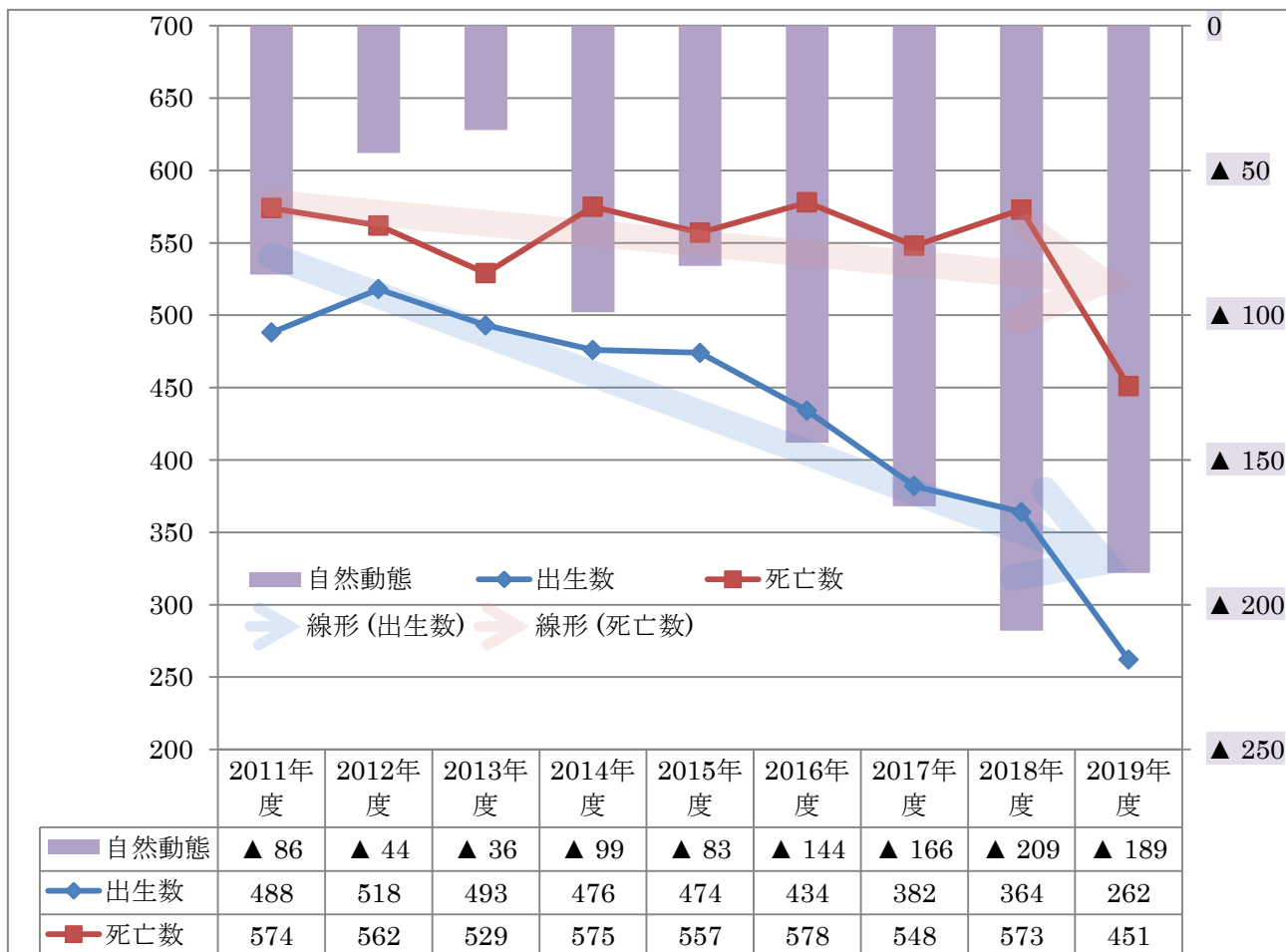
※2019年度は2019年12月末時点の数

転入・転出による社会動態について、日本人は徐々に転出超過に、外国人は転入超過となっております。

湖西市全体の社会動態では、2017年度までは、毎年100～400名の転出超過が続いております。

2018年度からは日本人も回復傾向となっており、令和元年度は外国人の転入超過の伸びもあり、久々の社会増となりました。

## ○自然増減の推移

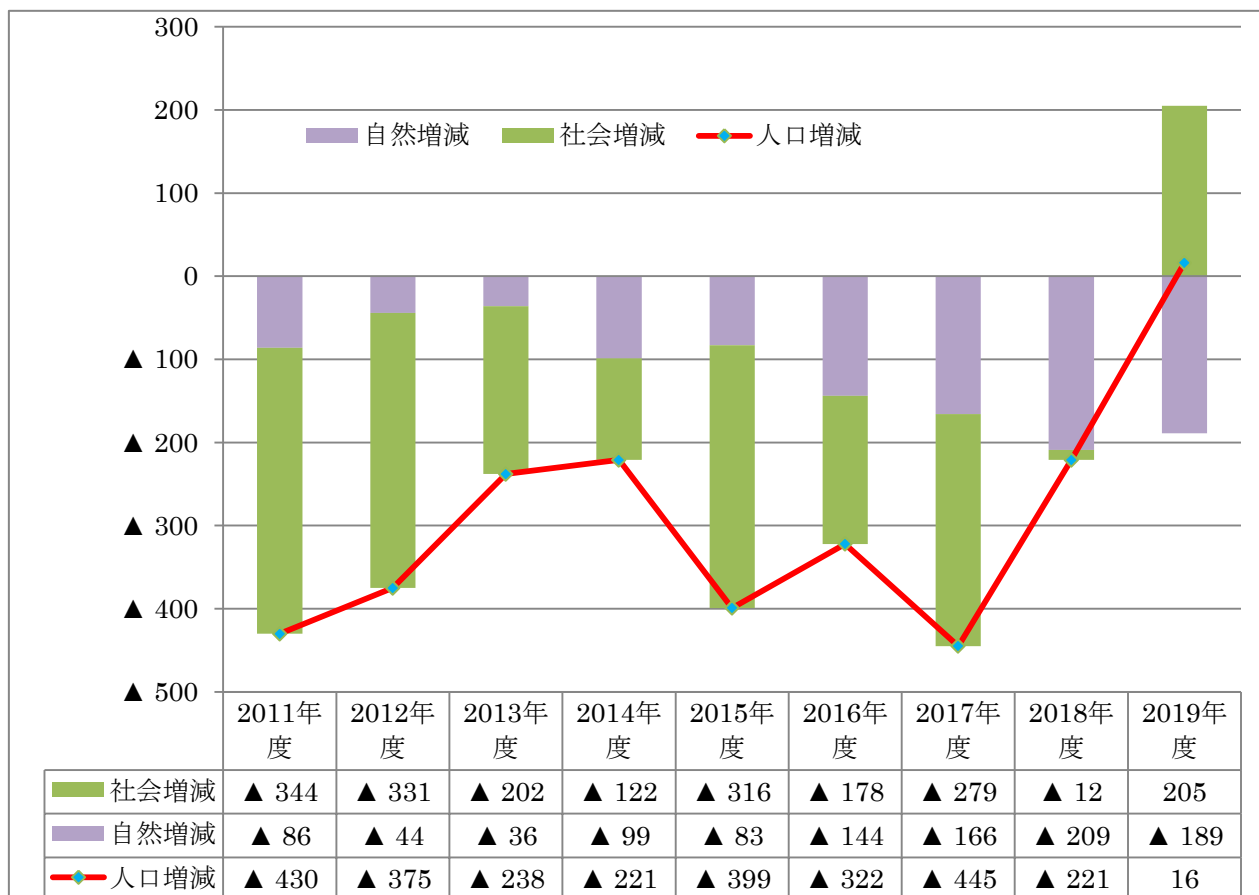


※2019年度は2019年12月末時点の数

出生・死亡による自然動態について、自然増から自然減に転じて以降、死亡者数が微増傾向、出生数が減少傾向にあるため、自然動態は全体として減少傾向が徐々に強まっております。

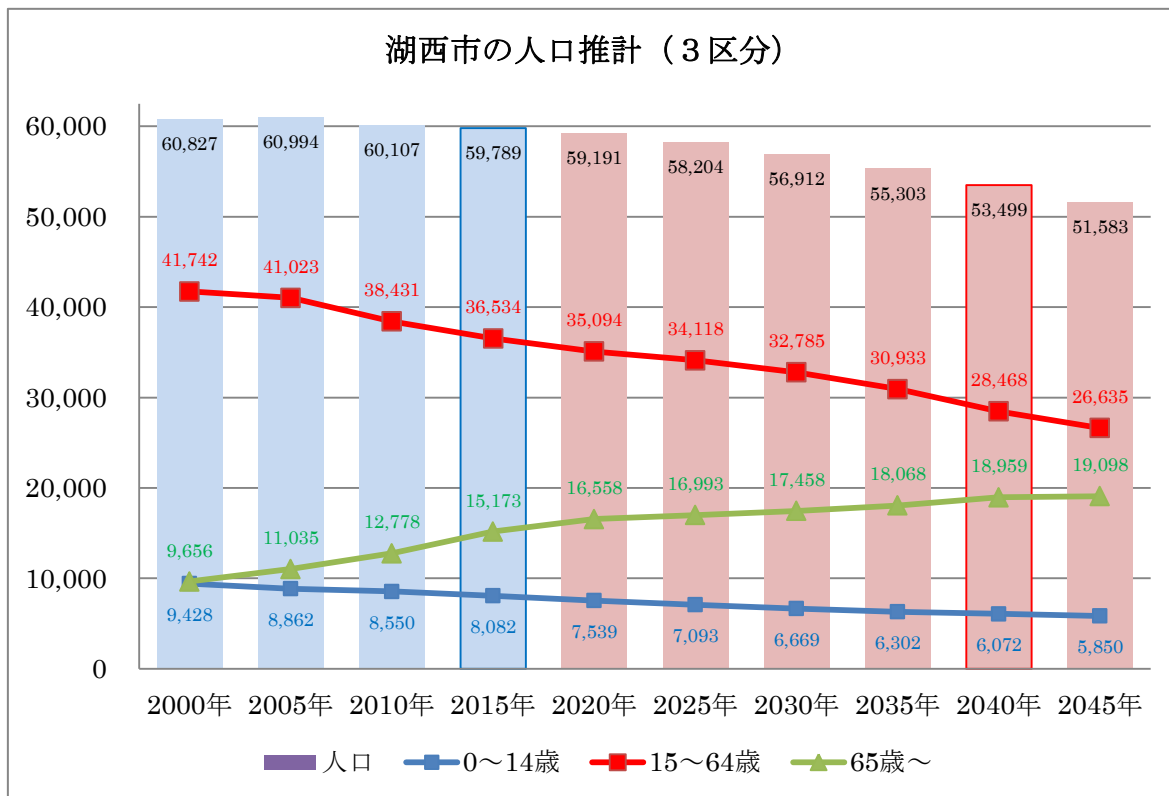
特に出生数は平成2011～2015年度は年間500人前後で推移してまいりましたが、減少傾向が顕著となり、2017年度以降は年間400人を下回っております。

## ○人口増減の推移



※2019年度は2019年12月末時点の数

○将来人口の展望(国勢調査を基準とした人口推計)



**社人研準拠**

国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が2015年の国勢調査をもとに2018年3月に公表した推計値に準拠した数値となります。

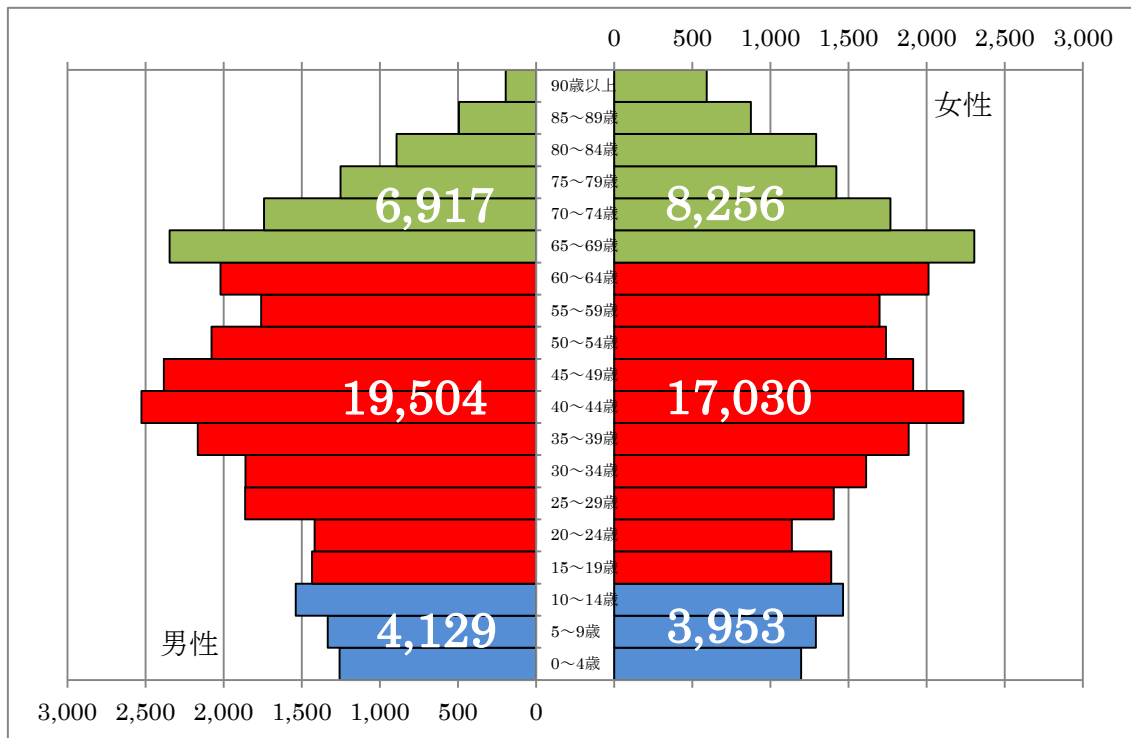
合計特殊出生率は1.58前後で、社会増減は微増で算定されております。

共通の基準で全市区町村を推計しており、原則として、水道などの生活インフラの整備はこの推計を根拠として将来の整備計画を組み立てます。

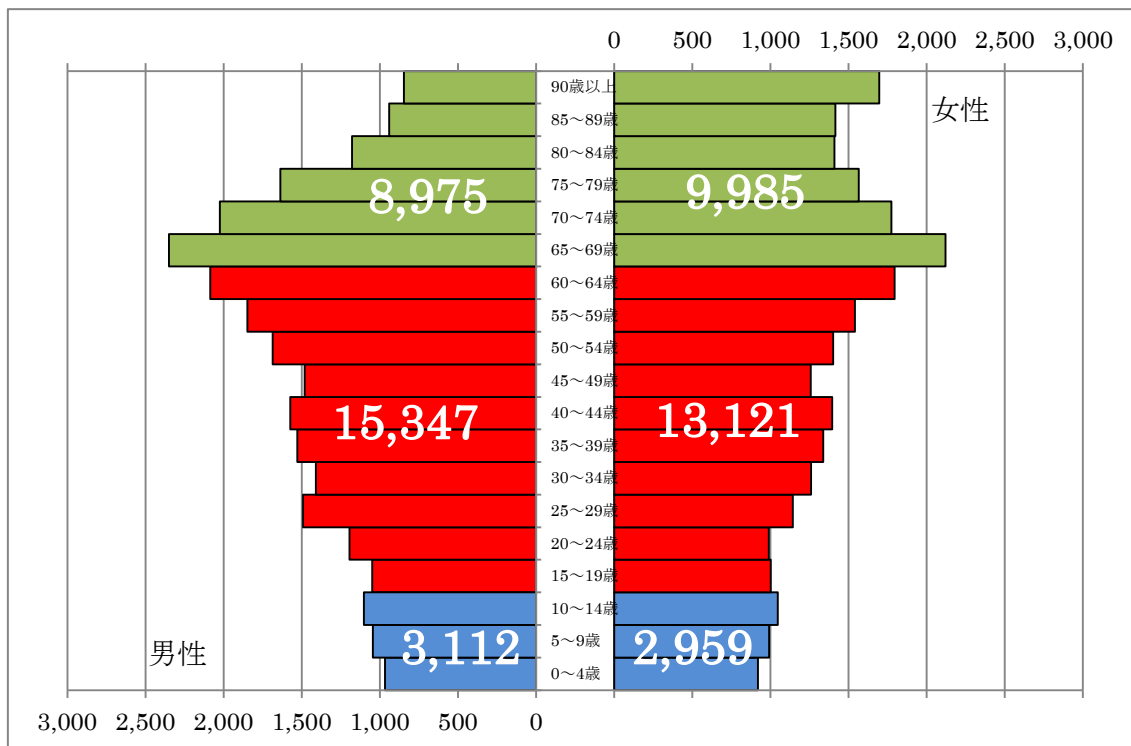
	2015→2020	2020→2025	2025→2030	2030→2035	2035→2040
社会増減	+82	+216	+244	+242	+350
出生数 (合計特殊出生率)	2,339 (1.59)	2,118 (1.57)	2,032 (1.58)	1,974 (1.58)	1,886 (1.59)
死亡数	3,019	3,321	3,566	3,825	4,040
人口増減	▲598	▲987	▲1,292	▲1,609	▲1,804
推計人口	59,191	58,204	56,912	55,303	53,499

## ○人口構造

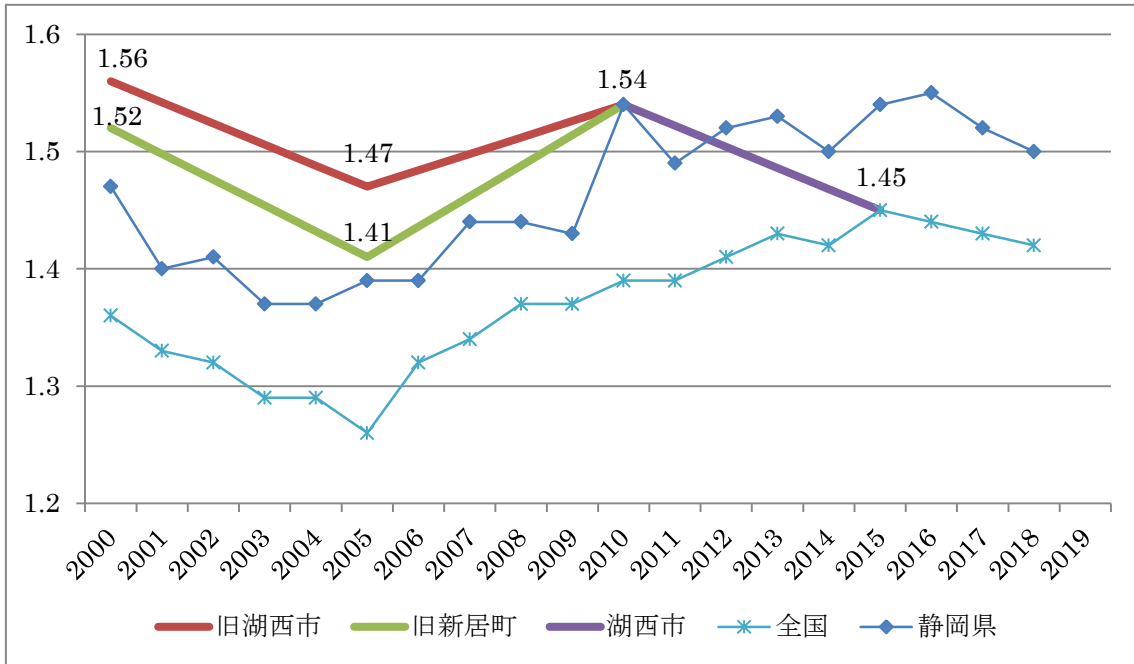
2015年 湖西市の人口構造



2040年 湖西市の人口構造(推計値)

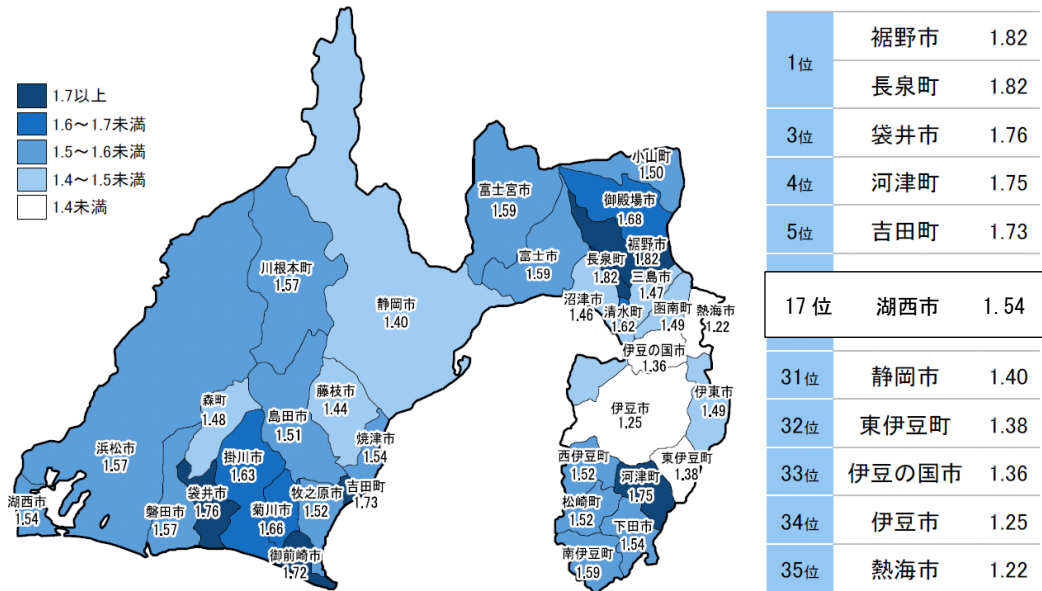


## ○合計特殊出生率の推移



## 市町別合計特殊出生率〔平成20年～24年〕

裾野市と長泉町が1.82で1位 東部は高低が混在、中部は低く、西部は高い傾向

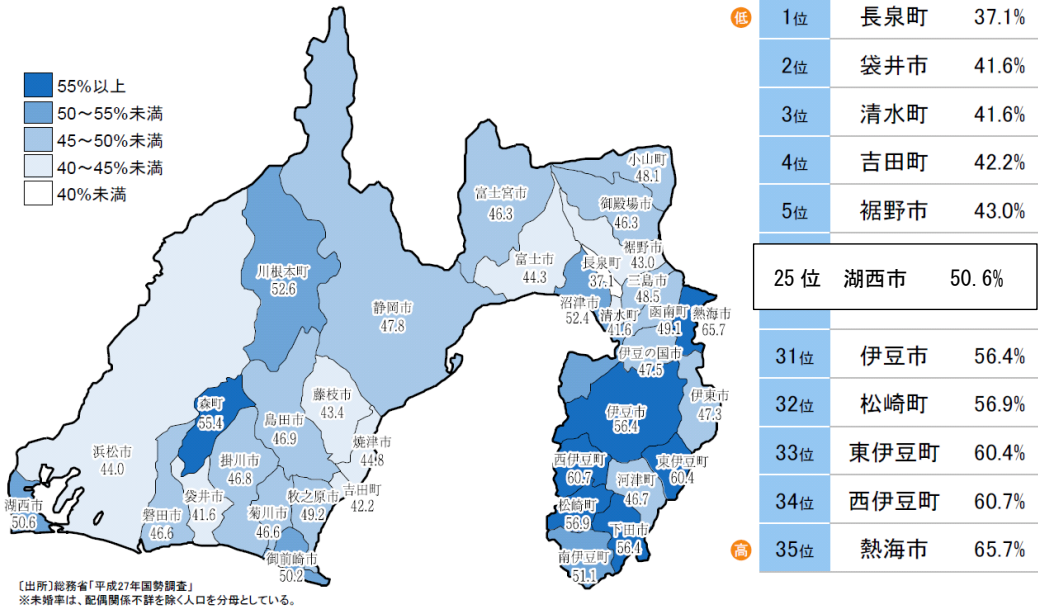


〔出所〕厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」



## 市町別男性未婚率（30～34歳）〔平成27年〕

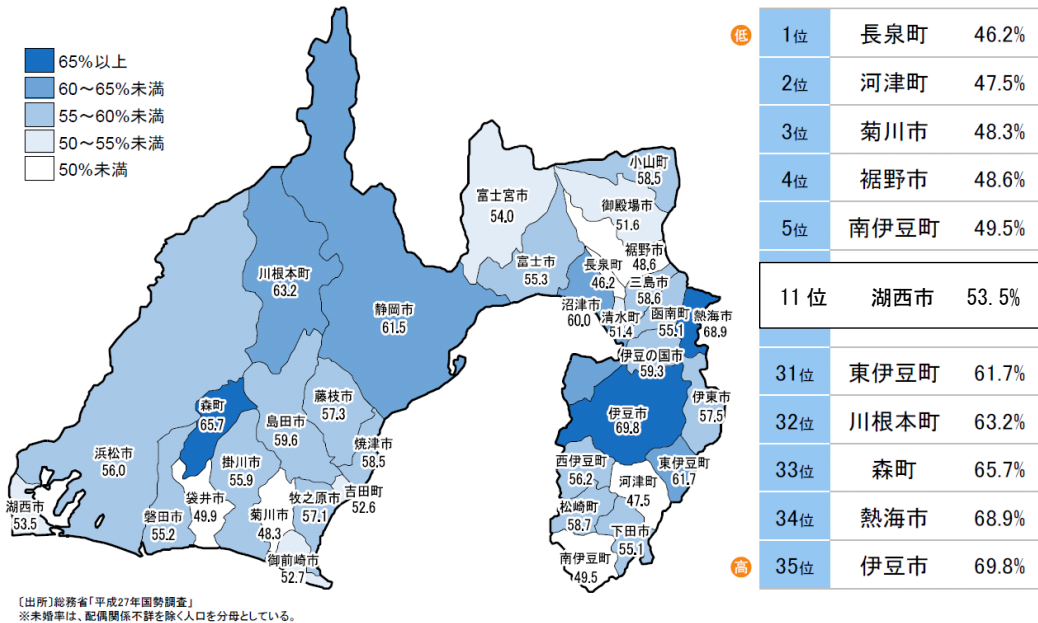
熱海市、西伊豆町、東伊豆町で60%を超えている



12

## 市町別女性未婚率（25～29歳）〔平成27年〕

伊豆市、熱海市、森町で65%を超えている



13